

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 昨年度に引き続き児童の習熟度に応じた指導や算数的活動を取り入れたため、算数を学ぶよさに親しみ、意欲的に取り組む児童がいる。
- 授業中や算数補習などで、繰り返し計算練習に取り組むことで、中学年までは基本的な四則計算については概ね理解している。

(2) 課題

- 算数を学ぶことのよさを実感しているが、学習や生活への活用に苦手意識をもっている児童が多い。
- 昨年度に比べ既習事項を基にして、筋道を立てて考えて適用問題を解く力が弱い児童が多い。

2 観点ごとの実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解を理解している児童が多い。 ・簡単な計算に、指を使わなければならない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の仕方を理解している児童は多いが、量感や時間の単位と関係の理解があいまいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の分解・合成、九九が苦手であるため、素早く正確に計算することが難しい児童が多い。 ・時刻と時間の求め方やその関係性の理解が不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値とほぼ等しい。 ・4位数の加減法、乗法や図形の意味や性質、長さや重さの単位や測定の理解していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値よりやや下回っている。 ・図形の性質を理解している児童が多い。整数の除法、小数の加減法の理解が不十分な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値より大きく下回っている。 ・基本的な計算の仕方が身に付いていない。整数、小数、分数の性質や割合の理解が不十分な児童が多い。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・図を使って立式することが習慣化されている。 ・自力で文章問題を読み取って、立式することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を正しく読み取れず、立式することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の場面を正しく捉えて立式することに難しさを感じている児童が多い。 ・図を用いて考えるよさを実感している児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値よりやや下回っている。 ・計算の意味やグラフの良さ等を実感できておらず、記述が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値よりやや下回っている。 ・除数と余りの関係や簡単な割合を求めるような問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値より大きく下回っている。 ・百分率のしくみを活用し、割合を求めるような問題の正答率が低い。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間などに計算練習するなど、学習したことよさや楽しさを感じながら学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを操作するなどすすんで学習に取り組むが、学んだことよさに気付いて生活に活用することにつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は高く、新しいことを学ぶ喜びやよさを感じながら取り組んでいる。 ・学習したことを生活やその後の学習に生かすことにつながらにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値とほぼ等しい。 ・学習意欲の高い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値よりやや下回っている。 ・学習意欲はあるものの、苦手な領域には、主体的に取り組む児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値より大きく下回っている。 ・算数に対して苦手意識を強くもつ児童が多く、自分の考えに自信がもてず、発表につながらない。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの加減法の計算が確実に行う力を伸ばすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・量感や時刻と時間の単位と関係の理解をすること。 ・2位数±2位数の繰り上がり、繰り下がり筆算を正確に行えるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の分解・合成や九九などの計算を素早く正確に行えるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりの計算を正確に行えるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数÷整数や小数の加減法の計算を正確に行えるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍数や公約数などの意味を理解すること。 ・整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。 ・百分率の意味について理解すること。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の具体的な場面が理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を正しく捉え、立式する力を付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻と時間の関係性を捉えて考えること。 ・文章問題の題意を正しく捉えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データを正確に読み取り、特徴や傾向を捉え、考察すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文やグラフ、表を読み取ったり、推測したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や式などを用いて、ある2つの数量の関係の比べ方を考察し、場面にあった演算決定をすること。

	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 算数を学ぶ楽しさは実感しているが、自分の意見に自信がもてないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数を学ぶよさや楽しさを実感しているが、積極的に手を挙げるのが少ないなど、自信のない児童がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活やその後の学習に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学ぶことのよさに気付いているが、苦手意識のある問題には解答の意欲がわからない児童がいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさに気付いているが、大きさ、かさなどの量感を意識できない児童が多くいること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用することが苦手な児童がいること。
授業の改善策	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数の合成・分解を（特に10までの数）を繰り返し練習する。 計算カードを活用し、反復学習の習慣を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に長さを測る活動など算数的活動を多く取り入れる。 繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で既習事項の復習の機会を設けるなどして、定着を図る。 手遊びゲームやフラッシュカードなどの活動を繰り返し取り入れ、数の分解・合成・正確な九九を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で既習事項を繰り返し触れるなど、定着を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書やデジタル教材なども活用し、既習事項を復習する機会を多く設け、繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で学んだ四則演算などの基礎基本を確実に身に付けさせる。 整数の性質は、具体的な場面に即して指導し、特に意味の理解を図れるように繰り返し指導する。 円グラフなどを用いて、百分率の意味を分かりやすく示す。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して文章を読んだり、絵や図、言葉に表したりしながら立式をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の場面を、簡単な図に表す方法を考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 時計の針の動きを観察したり、数直線の見盛りやその間について観察させたりすることを通して、実感を伴って考えさせる。 文章問題で分かっていることや求めることに下線を引いて丁寧にたしかめ、問題場面を正確に把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 着目する視点を明確に示し、自分の考えをもたせる。また、自分の言葉で説明ができるように、説明する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を使用したり、数の大きさを数直線上に表したりして可視化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を活用して、数量の関係や立式の根拠を説明する活動を取り入れる。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 「間違えてもいい」という集団の雰囲気づくりを行い、安心して発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的活動を多く取り入れ、自分の考えに自信をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてに立ち戻り、自分の言葉でまとめを書かせる。 生活に生かせる場面を紹介して意識付けさせたり、見付けて気付かせたりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合わせた指導計画を作成したり、授業中に声掛けたり、補習などで習熟させることで、前向きに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験できる算数的活動を通して、学習での達成感を味わえるようにスモールステップの学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を定着できるようにし、算数に対する自信を高める。 少人数での学び合いを通して、生活や学習に生かせるような気づきを得る機会を設ける。